

# 185年

## 中平二年（漢）

### 皇帝

劉宏（漢靈帝）

### 皇后

何氏（諱某・南陽宛県）

### 皇太子

（空位）

### 三公

太尉：鄧盛(前太僕・184~185) 張延(前太僕・185~186)

司徒：袁隗(前太常・182~185) 崔烈(前太僕・185~187)

司空：張温(前大司農・184~185) 楊賜(前特進・185) 許相(前光祿大夫・185~187)

### その他の要職

太常：？

光祿勳：？

衛尉：？

太僕：張延 崔烈 ？

廷尉：？

大鴻臚：？

宗正：？

大司農：？

少府：？

大將軍：何進（元河南尹）

驃騎將軍：

左車騎將軍：皇甫嵩(?~185) 張温（元司空）

衛將軍：

### 主な事件

- ▶ 春正月 大疫《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 琅邪王劉掾\*が亡くなった《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 二月己酉（2月10日）、南宮で大火。火は半月の後消えた。（注に引く統漢志曰く、このとき燃えたのは靈台殿、樂成殿、宮城の北門に渡る道、西の嘉德殿、和驩殿）《後漢書孝靈帝紀》

二月癸亥（2月24日）、広陽門（洛陽城の西に面した南頭門）の外の建物が自壊する《後漢書孝靈帝紀》

- ▶ 天下の田、一畝につき十銭を課し、もって宮室の修復に当てた《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 黒山賊の張牛角等十余の輩が並び起こり、荒らし回る《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 司徒の袁隗が免じられる。《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 三月、廷尉の崔烈を司徒となす《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 北宮伯玉等が三輔を寇じる。左車騎將軍皇甫嵩を遣わして之を討つが勝てず《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 夏四月庚戌（4月12日）、大風・雨雹が降る《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 太尉の鄧盛が罷め、太僕で河内の張延を太尉と為す。《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 秋七月、三輔に螟虫の害《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 左車騎將軍の皇甫嵩が免じられる《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 八月、司空張温をもって車騎將軍と為し、北宮伯玉を討たしめる《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 九月、特進の楊賜を司空と為す《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 冬十月庚寅、司空の楊賜が亡くなり、光祿大夫の許相を司空と為す。注に引く許相は許訓の子《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 前の司徒陳耽、諫議大夫の劉陶は直言して獄に下され死ぬ《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 十一月、張温は北宮伯玉を美陽において破り、邊寇將軍の周慎に追撃させ、楡中を囲む。また中郎將の董卓を遣わして先零羌を討たさせるが、どちらも勝てず《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 鮮卑が幽州、并\*州を寇略する《後漢書孝靈帝紀》
- ▶ 是年、萬金堂を西園に造る。洛陽で子が生まれたが両頭四臂であった《後漢書孝靈帝紀》

## 誕生者

## 死没者

楊賜（司空・死因不明）

劉嵩：淮陽節王豹の子。?巾賊に遭難。在位 32年。建安11年に国は除かれる。

[PAGE TOP](#)

[184年 <<](#) [>> 186年](#)